

第 21 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

TEL・FAX (0761)21-6330

印刷 マルト印刷工業株式会社



謹賀新年

平成十三年元旦

### 電波による宇宙探査

長野 勇

1957年の暮れ、ソ連が人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功し、遅れること3ヶ月米国のエクスプローラー1号の成功で、米ソの宇宙競争が始まりました。

当時私は中学1年生で、この両衛星の地上間交信電波の周波数がなぜ違うか不思議に思い、NHKの子ども科学相談に質問しました。また、隣のお寺の屋根から我家の屋根に大きなアンテナを張りスプートニク1号の電波を受信しようとしたのですが、当然失敗しました。中学生の技術では所詮無理なことでした。

日本も遅れること10余年自前の技術で人工衛星の打ち上げに成功しました。私の大学卒業のころです。その後幸運にも宇宙理工学の分野に身を置くことができ、電波観測装置を製作し、それらを科学衛星に搭載して、宇宙の自然電波を観測して、宇宙の構造や電波環境を調べております。

そもそも電波とは何か？それは電界と磁界が直角に振動し、光の速度で伝わる横波の波動であると高校物理で習ったと思います。これは地上でのことです。しかし、宇宙では空気は殆どなく、電荷を帯びた粒子つまりプラズマで満たされています。そのプラズマ中で電波が発生し、プラズマ中を伝わるのです。プラズマ自身が発信器であり、増幅器であり、アンテナでもあるのです。その電波は、地上とまったく異なった振る舞いをします。磁場のあるプラズマではことさら複雑になり

ます。電界だけの波動もあるのです。このような宇宙空間で、どのようなエネルギーのプラズマ粒子でどんな波動が発生するか、またどのような伝わり方をするかをあらかじめ理論的に調べておき、観測と比較することで宇宙の構造を調べることが出来るのです。

電波は観測地点の情報はもちろんのこと、旅人は旅先の出来事を記憶しているように、その伝わってきた経路の情報を何らかな形で持っているのです。それを、電波の振動数の変化、スペクトル、そして電界、磁界成分の波形の観測から、高度な信号処理技術を駆使して、引き出すことが可能になりました。

衛星に観測機を搭載するには、装置の小型化、軽量化そして省電力化が望まれます。衛星―地上局間の通信速度に限りがありますので、衛星内でデータ処理を行い、必要なデータのみ、地上に送るような仕掛けも必要になります。特に日本初の火星探査衛星「のぞみ」では、地球局との通信時間が往復最大40分もかかるので、観測機自身が観測データを解析し、地上からの指令なしに動作するよう設計になっています。「のぞみ」は2003年に火星に到達し、火星の大気を総合観測する予定です。「のぞみ」の電波観測機は、火星の大気で発生するかもしれない雷からの電波を捕らえるよう設計されています。もし、発見できれば世界初の快挙になります。

このように高感度、高機能そして自立型の電波観測機を製作しても、微弱な宇宙の電波を観測するためには、衛星

自身から発生する電波雑音を減らさなくてはいけません。宇宙空間に置かれた衛星からどのような雑音が発生して、観測にダメージを与えるかは、地上で予測するのは大変困難であります。NASAやアイオワ大学の研究者は何度となく失敗を繰り返して、その対策のノウハウを取得してきました。アポロ計画で示されているように、宇宙開発では失敗が次なる成功につながるのです。この米国の研究者から貴重なノウハウを学び、日本では数少ない衛星の開発において、磁気圏観測衛星「ジオテイル」を製作し、世界で最もきれいな宇宙の自然電波を観測することに成功しました。

日本が米国に追いついているときは米国には大変協力してもらいましたが、肩を並べたこれからは米国やヨーロッパを越える技術を開発していかねばなりません。また、私の研究室から、世界の衛星が捕らえた観測データをインターネット経由でほぼリアルタイムで見ることができ、学生と日夜データ解析を行っており、定説の覆すような発見に喜びを感じています。

電波観測により得られた成果は、21世紀からいよいよ始まる国際宇宙ステーションを足がかりとして本格的に人類の宇宙利用、宇宙文明の挑戦に役に立つよう願っております。

さて、最近になってようやく分かったことですが、冒頭の米ソの衛星に使用していた通信用周波数の違いは、単にソ連は、手持ちの発信機を使っただけです。深い理由がなかったようです。(高校15回)

皆さん、こんにちは。  
今回、私は演題に「夢」という言葉をつけました。「夢」と「ヒーロー」という意味ですけど、皆さんはビル・ゲイツをご存知ですか。マイクロソフトというアメリカの大きなソフト会社の会長です。今はやりのIT革命を先導してきたいわゆるアメリカンヒーローの一人です。彼の偉さは、お金を儲けたら、それを社会のために還元することを次のステップとして考えているところです。実際、芸術や社会福祉、新しいソフト開発のためにお金を使うことを終局の目的としているのです。

キュリー夫人も私に非常に影響を与えた一人です。ラジウムを発見し、ノーベル賞を受賞しています。放射能の研究をされ、晩年になり、それが医療に使えるということがわかると、そのための努力を惜しみませんでした。結局、放射能に冒され病気で亡くなりました。放たれたのですが、科学の分野だけでなく、社会に対しても積極的に働きかけることをなされたのです。

さて、私は高分子の研究をしています。高分子とはどういうものか、お話ししたいと思います。

生体、人間の身体とか動物の中にある高分子とはどういうものかと言うと、まず第一にあげられるのは核酸です。次はタンパク質、その次に炭水化物、そのほかいろいろなものがあります。現在では、合成的に高分子を作ることが非常にたくさん行われています。ポリ

エステル、アクリルの繊維、ポリエチレンやナイロン、いろいろなものを作られています。

さらに注目すべきは、高分子自体が材料として使われるだけでなく、そのほかのものと組み合わせられたコンポジットが非常に多くなっているということです。飛行機やスペースシャトルの機体の材料やゴルフのシャフト、テニスラケットなどは、非常に強い繊維を入れた「FRP」というコンポジットが使われています。

高分子というものは、いまはどこに

### 創立記念講演

## 「二十一世紀へむけて——科学と心と夢」

講師 寺本 明夫氏(高校4回)

京都大学大学院工学研究科  
工学博士・科学技術振興事業団研究員 立命館大学客員教授  
昭和50年高分子科学賞  
平成8年高分子科学功績賞  
小松市瀬領町出身

先へすすむ。ギョツとする質問をする子もいるわけです。しかし、自分の意見を言う、自分の聞きたいことを聞く、そういう習慣があつて初めて世界に通じるのです。

私は、国際交流ということに関心があつて、自分でもいろいろ経験を積んできました。なぜ国際交流かというところ、その一番目の動機は、日本からテレビや自動車だけでなく、文化や文明といった、ものの根幹に関わるようなものを輸出できないのかと考えたことです。二番目は、私が外国の人やものに対し

もあるわけですが、それが高分子であると証明されたのは、一九二〇年代にスタウディングガーという学者によつてでした。当時の学会で発表したとき、猛烈な反響を食らいましたが、彼は権威に立ち向かい「巨大分子」という名前を付けたのです。

私が大学で教えていて非常に残念だと思つたのは、日本の学生はリアクションが非常に少ないということです。ほとんど質問してこない。アメリカなんか行くと、すぐ質問してくるのです。そうすると、そこから会話が始まつて

てとても興味を持っていたこと。そして三番目は、日本へやってくる留学生が、自分の国へ帰つてからも独り立ちでき、立派になるまでの援助をしたいと思つたことです。

国際交流を進めるために、十年余り前に、大阪大学理学部国際高分子交流基金というものをつくりました。若い人たちが外国へ行き、外国の学会の雰囲気や味わつて来る。外国のいろんな学者の方をお呼びして自前の学会を開き、日本の若い学生諸君でも参加できるようにする。そういう援助を

したいと考え、十年続いておられます。

さて、学生の皆さんに若干メッセージを出しましょう。まず、二十一世紀というのは、皆さんが主役の時代です。これからどう生きるかということは非常に大事なことです。また、人にはそれぞれの能力があるということです。皆さんにも、どこか能力があるのです。能力というのは、試験の善し悪しだけではない。私どもがサイエンスをするとき、「1たす1は本当に2なのか」「1たす1の1は本当に1であるのか」ということをまず疑う必要がある。そうしないと新しいものが生まれて来ないのです。また、ある時は一つのものを表だけから見ず、悪いという点を逆手に取つて見るということも必要です。そういう柔軟な発想が新しいいろいろなことを見出ししてくれるのです。自分で考える習慣が必要だということです。しかし、将来何かしようと思う場合、それ相応の基礎体力もつけておかなくてはいけない。つまり、基礎的な学問、勉強はやはりしておく必要があるということです。

皆さん、これからはやはりサイエンスにもつと興味を持って、しかし、「心」というものも忘れずに持ち続けて欲しい。「心」を忘れると、たとえば公害問題などが起こってくる。サイエンスをして、しかも「心」を忘れない、そういう方向に何人かでも行つていただければ私は幸いに思います。

長い間、ご静聴ありがとうございました。

# 小松士校友会記

大西 勉

明治元年(一八六八)京都に設立した兵学校を濫觴とする陸軍士官学校は、昭和二十年(一九四五)の我が国の敗戦によつて七十七年の歴史の幕を閉じた。また、海軍兵学校やその他の陸海軍諸学校(経理学校、幼年学校等)も同様の運命を辿つた。

それから間もなく教育制度の改革が行われ、すべての学校は新しい制度に組み込まれ校名も伝統もその中に埋没した。しかし、母校小松中学の如きキャンパスも伝統もそのまま小松高校に継承され、昨年創立百周年を迎えたことは同窓生としてこの上ない喜びである。

その際、百周年記念誌回想篇に中学の五十年を書く機会を与えられた。その中で一回から三十二回の卒業生一九一七名の進学状況の一覧表に出会つたが、陸軍士官学校へ十五名が入学し十三名が卒業している。嘗て、昭和五十四年に三十六回生の速水さんの提唱で小松士校友会を結成し、物故者の追悼法要を行ったことがあった。その時には

中学三十五回、陸士五十四期生以前の調査ができず、以来、それが心に懸かつていたのである。

今春、門口さんから士校友会を開いて物故会員の追悼法要を行うこと

の申し出があり、小松在住数名の会員によつて設営することになった。兼ねて懸案であつた中学三十四回生以前の会員氏名を調べるには、この機会を措いてはないと思ひ記念館で古い記録を調べ十三名の氏名を確認した。その先輩の陸士該当期は永井さんに調べて貰つた。多数の陸士全卒業生の中から探すのは大変な作業で、その労を多としたい。

その後、二十九回生、三十四回生の二名が判明したが先の十三名は一回より十一回生で以後二十八年間に一人の入学者もなかつたことになる。それはこの間に多くの高等専門学校が新設されて進学の選択肢が多くなつたことや軍縮の時代を反映したものであろう。結局、陸士の卒業生と敗戦時に在学中の者を含めて五十五名になり、そのうち物故者二十七名(内、戦死者八名)生存者二十八名である。

平成十二年七月七日、会員十六名が参集して長円寺に於て物故会員の追悼法要を厳に執り行つた。因みに同寺の住職は当会の会員である。終了後席を他に移して懐旧の宴を開き再会を期して散会した。猶、三十四回生の城田賢一さん(陸士五十三期)が遙々と静岡より参加され感激であつた。

参加者は次の通りである。( )の中

の数字は中学卒業回。

(29)城田賢一(39)門口忠男、太田外茂男(40)小林利外、西辻淳(41)岡田外行、玉田勇作、中川栄一、奥正則、竹田又男、永井宏明、大西勉(42)新谷秀成、松永昭陽、谷村守雄、池上弘 (中学41回)



## 川柳に添えて

城田 賢一

「天守台」第20号拝受。懐かしくまた、楽しく読ませて頂きました。

昭和十二年卒業以来六十二年。爾来、故郷は遠くに在りて想ふものの日々。昨年は百周年、今年は士校友会(陸軍士官学校入校者の会)の戦死、物故者の慰霊祭と、久々に

小松を訪ねる事ができました。駅前の変りようは目を見張るばかりでした。中学入学早々、小松の大火の事など昨日の事のように思い出されました。また校舎が新しくなるようです。

男女共学の高校となつた直後、体育館で女生徒の逆立ちに接して目をパツチリ、更に驚いたのはその脚を支えているのは男子生徒でした。

懐かしい青春の思い出一杯です。天守台にも登りました。白く輝く白山を仰ぎました。応援歌の練習もこの天守台でした。梯川も眼下に見えました。校区対抗のボートレース、水泳練習に遠泳、次から次へとまぶたに浮んだ事です。

それ笑え爺と婆とが百面相アパートの窓夫れ夫れの月が射し残照もかすか戦後は遠くなり (中学34回)

## “おそ松”の歌

春木 盛正

まんさくは白山麓ではねそといふ炭焼小屋はねそで結わえき (ふるさと山路紀行)

うらわれの声も飛び交ひ賑賑し天守台下の残党の宴

(旧制中学雲井の会) 大正は明治と昭和の間にて サンドイチの中味の味よ (平成凡骨願有感)

学徒出身五十周年記念簿に  
われ生くるあり有難きかな

(海軍予備学生会員)  
大日の緑を承けしせせらぎの  
末は手取か梯川か

(南加賀水源流れ旅)  
君知るや名水百選何のその  
五百峠の涌き水の味

(ルート416秘文)  
政界は離合衆参(集散)数合せ  
数は力だ中味は次だ

(再編序曲ながた調「永田町」)  
重慶を発し三峽下りつづ  
漢詩の里を仙境に訪ふ

(中国長江探訪の旅)  
旗日とも呼び親しめる祝祭日  
今は傍日が只の休みか

(慢性不掲旗症候群)  
今日も往くかんじき姿の郵便さん  
五百峠の雪の旧る道

(丸山の三ぎ貫冬緑)  
四方寺の百八の鐘鎮まりて  
大白山下加賀野明けたり

(暁気爽旭旗翻る)  
門別の町より訪ね来し朋は  
かぶとの里に祖先偲べり

(天領後裔平成の旅)  
牛が首峠に集い吟ずれば  
大杉山峽和して凜たり

(吟詠仲間山彦道中)  
凡骨の耐用年を人間はば  
減価償却プラスα

(大正生残り迎春譜)  
雪暮れて薪火あかあか大いりり  
夜鍋大根づくつと煮ゆ

(冬山里才工日記)  
(中学34回)

## アフリカの青年と

柿原 秀嶺

武蔵野市在住の私が隣の市の依頼で、アフリカの青年の日本語学習の補助をボランティアとして二年ほどやりました。

彼は当時中学二年生。国語の教科書一週間分を、私が全文英訳して手渡し、彼は授業の前日までに大体を理解したうえで教室に入るので、補習当日は、宿題や設問を終えた後、彼が英文で認めた感想文を白板に日本語に訳し、私が朱筆を入れて日本文に仕上げるのです。

ある日「月日は百代の過客にして」で始まる奥の細道を話した機に、俳句と和歌について説き出したところ彼は訝しげに「和歌とは平和の歌という意味ではないのですか?」と。つまり彼は「和」を「平和」とだけ理解していたわけです。

そこで私は日本民族は大和民族と自称する。それはギリシャとはローマ人が呼んだ名前、ギリシャ人はヘレン人と自称する。だからギリシャ文明をヘレニズムというのと同じで、それを「和」という文字で表す。だから日本語—英語は和英、ドイツ語—日本語は独和辞典と表現すると説明したところ、彼は更にイギリスをなぜ英というのかと聞くので、それはイギリスは英吉利、ドイツは独

乙と書いたからだと教えて、ようやく納得しました。国名で埃土、西班牙、都市名で紐育、桑港、伯林、巴里、倫敦：皆さん見当が付きますか?

次に印欧系言語は表音文字であるのに対し、漢字は表意文字である上に、その漢字を借用して日本文が造り上げられた歴史があるために、外国人が日本語習得に戸惑うことが多いのです。同音でも「工科、硬貨、効果、降下」：全く意味が異なります。逆に「大家」を「タイカ」、「タイケ」、「オオヤ」と呼び方で意味は全く異なります。「成敗、心中、工夫、人氣」：同発音するかで意味が異なります。私は頭に浮ぶ限りの同種の単語を日英両語でリストを造り、都立国際高校に四倍の競争に勝ち抜いて合格した彼にお祝いとして贈りました。

日本で食物が粗末に廃棄される光景は、アフリカでは想像を絶することである事、そして内戦の悲惨さについて諄々と話す彼の姿が眼の底に焼き付いて忘れることができません。(中学37回)

## 日帰りバス旅行

双松会 橋本友康

一九四六年九月二十日、第五学年生徒、福井永平寺へ一泊修学旅行。列車や乗客の様子が昨日のこの

ように浮かんでくる。

当時、五年生は一二八名だった。全員が大広間の格天井、総絵天井の間「傘松閣」で、頭上の狩野派の画家たちの絵を眺めながら寝入った。翌日早暁、「朝課」のお勤めに参詣法堂での導師、雲水の読経の中、「石川県立小松中学校山本外吉校長以下一二八名の生徒の……云々」緊張と荘嚴な雰囲気、雲水の合唱のすばらしさが若き心に響く。

今でもその時の読経が聞こえてくる。さて、今日は双松会隔年毎の日帰りバス旅行。どんな出会いや感動が待っていることか。

余裕たつぷりのバスの後部席では早やばやと、円卓囲み古稀の輪。もう七回忌も過ぎた亡き南民夫氏、「オイ！ワッラ、ウチノカァチャンノツクッタスシヤクエクエ！」  
暖れ声と笑顔が目には浮ぶ。

卓上に夫人手作りの押し鮎や茗荷の粕漬が。心がこもっていて旨い。安井氏より思い遣りの焼酎、珍しい零余子のオコワが巡る。

チビリチビリの談笑のうち、飛騨高山の茶の湯美術館に着く。

現代の人間国宝、工芸家、茶道家元、千家十職の作品約百点が展示されている。その道の大家、山近剛氏の解説を聞きながら鑑賞する。3代徳田八十吉の作品、「碧名耀彩水指」「無心」もひときわ見事。



漆芸品では、寺井直治の鶉の卵殻を細かく砕き、一つ一つ丁寧に拾いあげて描いたという作品、「鶴蒔絵平棗」、「鶯蒔絵香合」が目をはひく。氏の生存中の人柄がしのばれる。

茶の湯の世界を彩る様々な逸品をみて、くつり。

隣の茶室、銅閣庵で名工の創りあげた茶碗でお茶を嗜んでいる諸氏もいた。

飛騨古川は、高山と同じく戦国から江戸初期にかけて、金森長近が支配していた地域。木工、酒が有名。瀬戸川に沿っての古い街並、まつり会館、匠文化館をみて歩く。

造り酒屋では、蓬菜、艶夜の夢、そして白真弓、やんちゃ酒等々、銘柄をみただけで酔っぱらってきた。屋は、ざいご料理を食う。

朴葉に載っている地元の食材の数々ゼンマイ、ゴボウにナツメ、鮎、トウワ、全て美味。言うことなし。

この旅の成功は、会員はもとより六人の夫人方の優しさと、安田進一郎氏の熱意と努力によるもの、感謝感謝。(中学45回)

「双松会関東支部総会」開催

幹事 牧和郎

旧制小松中学校昭和二十一年、二十二年の卒業生は毎年同窓会を開いて旧交を温めている。

終戦後の特別処置で四年生でも

卒業が認められたので、同期生でありながら卒業が二回に分かれた。勤労働員で苦楽を共にした仲間であり「双松会」と称し特別な絆により結ばれている。

今年は関東支部担当で、九月三十日に横浜みなとみらい21のランドマークタワー70階の日本一高いレストランで昼食パーティーの形式で開催した。

幸いにも晴天に恵まれ、横浜港が眼下に拡がり房総半島の山々が遠景に霞んですばらしい眺めであった。

関東勢十五名の外、小松から教育界で活躍した安田進一郎、関戸信次、橋本友康君が出席して盛会であった。

まず、事務局の安田君より母校や会員の状況について報告があり、続いて関戸君から、永年の化石の研究が実り恐竜解明のために中国並びに米国ロスアンゼルスへ出張研究に行っている旨の紹介があった。

橋本君は私立本陣記念美術館長を退任した後も、各都市の美術館との交流が続いており、会の後、東京の美術館の訪問を計画していた。浅草の運行寺(なつめ寺)住職を勤める菅原(旧姓大垣)君が遅れて参加した。京都で真宗教団連合結成三十周年で表彰を受けていたため、教団の財務長などを歴任し中国との交流も進め教団の要職にある。

卒業以来初めて会う旧友もおり、話は尽きず、予定の二時間の後は場所をピヤホールに移し二次会で又語り合った。

皆七十歳を越える年齢になったが元氣一杯で、高級レストランであったため「加賀野の果の白山よ、波打騒ぐ北の海」の懐かしい校歌が歌えず残念であった。来年は小松開催である。(中学45回)



天守台

山崎 行雄

春二百余を数ふる

爛漫のさくら

その上に

白山が見えたり

朧げに

夏寝そべるくちなはを石をもて打ちたり  
あやまたずくちなはの墜死したりき

秋眼下に芒が連なり  
その白き穂を  
風がなぶりてあたり  
田には  
籾を焼く煙が  
いくすじも立ちてあたり

冬雪雲が西の空を覆うて  
海鳴りが身を抱みたり  
早くあくまでも早く逝つた  
友の名を叫びき  
氷雨に頬を打たせたり

三たび春がめぐり  
別れの季が来たり  
再会を約して  
乙女は手袋をぬぎ  
手を差しのべ呉れし  
真乙女の手はぬくかり  
石垣の陽だまりに  
風花が  
たゆとうてあたりき

たかだか  
海抜十一米の  
されど  
わが天主台

(高校9回)

# 「みどり会」総会に出席して

高桑 芳子

今年も元気で出席出来ました。四回生では北島美佐子さんと二名です。実は昭和五年卒の二十名のうち存命は七名となりました。

今日の会合では、高校百周年記念式典や事業のことや、回想録などを回覧して楽しく昼食をいただきました。そこで、私も想い出話をさせて貰いました。昭和五年三月二十五日、橋北大火で、卒業証書も数日の間に焼失、勿論中町の家も家財道具も、母校も全焼でした。十五回の卒業生の方は、幼稚園は旧小松中学の一棟を借りていらっしやうと同じ災難に合槌を打って下さったが十八回や二十回生の出席者の方は体験されていない三歳以下。(ごめんさい)

何分、来年は八十八歳を迎えます。勤めも致しました。小松精練会社でした。二十一年間も続けて長寿によつて、会社からお祝いをいただけるそうです。年休なども当時はなかったようでした。元気だけの気力で、務められたからの事でしょう。こんな話しまで皆さんに聞いて貰って浮き浮き致しました。帰ったら夫に何を「馳走しようか」と思って居ます。みどり会の皆様、ありがとう！

平成十二年八月二十七日、小松

グランドホテルにて、出席者二十名

(市女4回)



## 中谷宇吉郎博士の思い出

北山 寛子

シアトルに住む娘宅に落ちついた十月八日、届いた朝日新聞衛星版の書籍広告欄に「生誕百年―自然人、科学について示唆に富む諸篇 中谷宇吉郎集 全八巻 岩波書店より刊行」の記事が目についた。

雪の研究で世界的な中谷宇吉郎博士は、亡き父の同級生であった。そしてたつた一度、お目にかかった貴重な思い出が甦った。

それは昭和二十二年の秋だったか、はつきりした日時は遠い思い出の霞の中の出来事でしたが、アメリカから帰国された中谷宇吉郎博士がゲスト出演されたNHK金沢放送局の催しが終わったあと、旧交を温めようと父が自宅にお招きしたの

です。

忙しい日程を割いて小松の実家へ来て下さった博士と父は、懐旧の話題に花を咲かせ、私と結婚したばかりの夫、北山盛久も後輩として同席させて貰い、アメリカの話など貴重な体験談に聞き入ったのです。物資の乏しい時代でしたが父が調達した旬の鯛を焼いて食卓にお出したところ、「やはり郷土の鯛は美味しいなあ」と本当に美味しそうに召し上がられました。その食べつぶり「郷土の鯛は美味しい」と言われた一言が印象的でした。

秋になると、中谷博士と父は、あの世界でも郷土の鯛は美味しいなあ」と破顔一笑、鯛をもりもり食べているのではないかと、思い出す私です。(県27回)

## 一番大切なもの

西田 哲平

私は、昭和三十年四月に入学し、三十三年三月に卒業した小松高校の十回卒生である。卒業してから今年(平成十二年)で四十二年、昨年還暦を迎えた。還暦を過ぎたこの年になつても高校時代の思い出で鮮明なものがある。高校時代の授業で感銘を覚え、今も心に残っている「コマ」を次に紹介することにしよう。

それは、一年生の「一般社会」の授業のことであった。担任の石田実

(教頭)先生がある時、「この世の中で一番大切なものは何か」と生徒に質問された。皆、不意を突かれたよう

で、シーンとなつてしまつた。暫く様子を見ておられた先生は、「それでは宿題にしよう。この次の授業の時までよく考えてきなさい。」と言われた。私はそれまでそのようなことは考えた事もなかつた。しかし、この質問の持つ深い何かに心を引かれたのだろうか、とにかく一生懸命に考えた。そして、ハッと思い当つた。それは命だ。人間の命だ、と。正解を見つけたぞ、と思つて次の一般社会の授業に出た。授業の冒頭、先生は尋ねられた。「どうだみんな、考えて来たか。この世の中で一番大切なものは何か」と言いながら教室の中を見渡された。皆シーンとして誰も答えない。私は私なりに考えて、答えは持っていたが手を挙げて答える程の自信がなかつた。そうこうしているうちに先生は、「命か、命あつての物種か」と言われたのだ。この言葉を聞いて私は内心がっかりした。命ではなかつたのか。命だとばかり思っていたのに、と。かくて再び静寂の時間が流れた。やがて先生は徐にチョーク箱からチョークを取り出して黒板に向いその中央に、子日 朝開道 夕死可矣 と板書された。

そして「道」という字の横に線を引

きながら、ゆつくりとした調子で、ここで言う道とは今日で言う真理のことである、と解説された。

真理とは、本当のこと、まこと、道理等形式的な言い換え技術は知っているでも、それに価値判断の物差しをあてて考えたことはなかった。真理とは、人の命よりも大切なもの、それは一体どういうものなのか私にはよく分からなかった。ただそれは深い哲学的思索や認識にかかわる問題らしいとおぼろげながら想像したが、はつきりと分かつたわけではなかった。分からなかつたけれども、先生のこのお話しや問いかけは、その後も長く私の心に残った。大学に入つて哲学の勉強をした時、石田先生から受けた右の問いかけが大変役に立つたように思う。と言うのは、

「雪博士」生誕百年  
西坂 香苗

平成十二年は「雪は天から送られた手紙である」の言葉で知られていた。中谷宇吉郎博士の生誕百年であった。加賀市にある「中谷宇吉郎雪の科学館」を中心として、同館友の会、地域の方々、数多くの支援者の皆様のおかげで様々な記念行事が行われましたのでご紹介します。

・生誕百年式典・フォーラム  
(7月1日)

博士の愛弟子である樋口敬二氏、作家の高田宏氏、池澤夏樹氏をむかえて開かれたフォーラムに約二百人が参加。二時間にも及ぶ話の内容は、教育のあり方から博士の思い出まで多岐にわたりました。

・雪のデザイン展  
(6月17日～7月2日)

「雪」をテーマにした作品を全国公募。陶芸、ガラス工芸、織物やポスターなど、集まった約三百点の中から選ばれた、一〇九点を加賀アートギャラリーで展示。今後は二年に一回行われる予定です。

・寅彦と宇吉郎の絵画展  
(9月23日～10月15日)

恩師、寺田寅彦は博士が最も影響を受けた人物。二人の油絵、水彩画などを展示。博士の墨絵にはファンが多く、中には何度も訪れる方も。

・日本雪氷学会全国大会  
(10月1日～10月5日)

かえりみれば、あれからもう四十余年の歳月が経過した。少しは進歩したかもしれないが、それでも真理について未だに確かな理解に到達しているとは言えない私である。おそらく生涯にわたる問いかけになることだろう。石田先生の学恩に感謝しながら、これからも問い続けていきたいと思う。(高校10回)

雪氷(せつびょう)分野の第一人者である博士の研究が、この学会発足の一つのきっかけとなる。柴山瀧を望む会場で、雪崩や吹雪など様々な研究の成果が発表されました。他にも文化人切手の発行や、新たな随筆選集の刊行と、多才であった博士ならではの色々な形で生誕百年を盛り上げる事が出来ました。この節目の年に、雪の科学館で多くのイベントに関わる事ができて、とても嬉しく思います。

最近では石川でも雪が降り積もることは少なくなりました。日々の生活は楽な反面、冒頭の言葉を思うと、暖かい冬に何か物足りなさを感じてしまうのは私だけでしょうか。

(雪の科学館勤務・高校46回)

## 小松同窓会

### 金沢支部だより

木村 郁子

二年に一回金沢支部総会を開催してきましたが、昨年度は母校百周年記念大会のために総力を結集しようとの申し合わせで中休みとなっておりました。平成十三年六月に支部総会を開催の予定であり、そのための幹事会を平成十二年九月二十二日午後六時からワシントンホテルで二十六名の参加のもと開催しました。主な議題としては、役員改選、規約変更についてで、その他情報や意見交換など活発に行いました。支部長の吉田耕介氏が健

康上の理由から辞意が固く、後任として新しく東郷宏氏(中学44回)が、又、幹事長中修司氏(高校7回)の後任として前坂雅男氏(高校8回)が選出されました。副支部長木村郁子(県女30回)、会計監事上田邦子氏(高校7回)は留任となりました。今後は会員の増加も考えられるので、副支部長を二名(男女)とし、幹事長、会計監事も副を設け、それぞれ二名とすることに決まりました。中学、高女の会員も高齢となり、今後は高校の会員が中心となり幅を広げ、支部としての強力な組織作りをし、更なる結束と親睦を深めていきたいとの意見、要望がありました。又、新幹事長前坂氏から、支部の範囲を明確にし、会員名簿を新しく作成したらどうかとのことでした。明年の支部総会についても意見を出し合い、実りある会運営となるよう協力を約し散会しました。

金沢支部では趣味の会として昭和六十一年四月に「白嶺句会」が発足しました。小竹由岐子氏(県女37回・ホトトギス・あらうみ同人、県俳文学協会常任理事、日本伝統俳句協会評議員)の指導のもとに会員十四名が、毎月一回の句会、年に一〜二回の遠出の吟行もあり、同窓の縁に結ばれ小松弁丸だしの和気あいあいの句会を続けています。母校百周年記念式を祝し「白嶺」第二句集を刊行しました。

(県女30回)

### 2000年度小松高校 部活動の記録

#### 陸上競技部

北信越 110M障害 東出文康出場  
 県新人 110M障害 1位 東出文康  
 団体予選  
 少年B 110M JH 1位 東出文康  
 (富山国体出場)  
 少女B 砲丸投 1位 北村加奈子  
 少女A 400M 2位 平島夕香里  
 少年B 800M 2位 石浦 拓海

#### 水泳部

北信越 200M自由形 4位 金藤利幸  
 飛板飛込 2位 西野拓磨  
 高 飛込 3位 西野拓磨  
 全国総体 飛板飛込 4位 西野拓磨  
 国民体育大会  
 800Mリレー 金藤利幸出場  
 飛板飛込 4位 西野拓磨

#### ボート部

県総体 男子ダブルスカル  
 2位 竹田、山下  
 女子ダブルスカル 1位 高塚、中川  
 シングルスカル 1位 森山、2位 村上  
 北信越総体  
 男子ダブルスカル 5位 竹田、山下  
 全国総体  
 女子ダブルスカル 準決勝 6位 高塚  
 シングルスカル 準決勝 4位 森山  
 国体県予選 男子舵手付フォア 1位  
 北信越 男子舵手付フォア 4位  
 ダブルスカル 2位  
 富山国体  
 男子ダブルスカル 準決勝4位 山下  
 県新人 男子舵手付クォードルブル  
 A 1位  
 ダブルスカル 2位  
 女子舵手付クォードルブル 1位  
 ダブルスカル 1位

#### 男子バレーボール

県総体 3位(北信越大会出場)  
 春の高校バレー祭 準優勝

#### サッカー部

県新人 準優勝

#### ハンドボール部

女子団体 3位  
 男子団体 3位  
 女子団体 3位

#### 放送部

県総体 NHK杯全国放送コンテスト  
 石川県大会アナウンス部門  
 優良賞 小西真理(全国総文県代表)

#### カヌー部

県総体 K-1 1位 山本  
 K-2 2位 山本、清塚  
 C-1 2位 梶、藤吉  
 C-2 2位 梶、藤吉  
 県新人 K-1 2位 久保  
 K-2 1位 萩野、竹田  
 C-1 2位 橋本  
 団体県予選 少年男子K-1 1位 山本  
 少年男子 C-1 1位 本尾  
 北信越国体  
 少年男子 K-1 1位 石川選抜  
 (山本他)  
 C-1 1位 石川選抜  
 (梶 他)  
 富山国体 清塚、梶、山本出場

#### 音楽部

石川県高校声楽コンクール  
 3位 熊田 洋子

#### 吹奏楽部

中部日本吹奏楽コンクール県大会  
 高校A編成の部 優勝  
 全日本吹奏楽コンクール県大会  
 高校A編成の部 金賞 県代表  
 全日本吹奏楽コンクール北陸大会  
 高校A編成の部 金賞

#### ESS部

ドラマフェスティバル 第3位  
 個人優秀賞 橋場 真美

#### JRC部

手話発表 JRCメンバー全国  
 国際交流集会  
 県代表 西東孝信

#### 囲碁・将棋部

全国高校囲碁選手権石川県大会  
 個人戦 優勝 村井達暢  
 (全国大会出場)

その他部以外での成績

#### かるた

石川県高等学校対抗かるた大会  
 2位 陸、中川(全国大会県代表)  
 石川県高校かるた選手権大会  
 1部 優勝 陸 美幸

#### 空手道

県総体 個人形 4位 牧野 健司  
 (北信越大会出場)  
 県新人 1年女子形 優勝 吉田 美樹  
 (北信越大会出場)

## 第8回関東小松同窓会総会・懇親会 8月26日に盛大に開催される



第8回関東小松同窓会は、去る8月26日に東京・新高輪プリンスホテル「北辰の間」において、中学から高校41回までおよそ400名の同窓が集い盛大に開催された。今回は高校23、24、25回が総会幹事を担当し、IT時代に相応しく会場正面に大型スクリーンを配して、ビデオカメラとコンピュータを駆使してビジュアルな映像と音響で懇親会を盛り上げた。

開会30分前には、お旅祭り・子供歌舞伎の映像を流し、参加者

一同を小松にスリッパさせた。大型スクリーンには、昨年の小松中学・高校創立100周年の記念式典や甲子園での活躍の様子が映し出され、参加者の郷愁を誘い、また、各期毎に配列された40ほどのテーブルでは旧友との再会に大いに会話が弾んだ。

(補足)関東小松同窓会のホームページ(<http://www.darana.gr.jp/>)には、総会・懇親会の報告を掲載しています。是非、度アクセスしてみてください。

## 本部だより

### 徳田会長が 美術品二十二点を寄贈

小松同窓会長である三代徳田八十吉氏はこの程母校に、所蔵する美術品二十二点を寄贈された。三代八十吉作品三点をはじめ、二代八十吉、十三代今泉今右衛門、珍らしいピカソの魚紋鉢など。中には三代將軍徳川家光が前田利常に送った書簡も含まれている。記念館に常設展示してあります。どうぞ自由に御覧下さい。

◇小松同窓会事務局からお願い  
 最近、卒業生ご家族の方々に小松同窓会の名を語り、名簿の作成のためと称して、お子様の住所、電話等の問い合わせがあるようですが、当局では現在そういったことは行っておりませんので、ご注意くださいますようお願いいたします。

◇さて、小松高校のホームページが昨年八月に開設されました。どうぞ御覧下さい。アドレスは次の通りです。  
<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~komah/>

#### 第22号の原稿募集

- ◎切 平成13年5月30日
- ◎内容 自由(在学中の思い出、同期の催し、近況報告など)
- ◎送先 〒923-1864 6  
 小松市丸内町二の丸15  
 小松同窓会事務局宛

- ◎発行 平成13年7月